
My life

のらりくらり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

My life

【Nコード】

N5173I

【作者名】

のらりくらり

【あらすじ】

主人公、高菜 駿は高校一年生。

彼を取り巻く友達たちと、恋に遊びに生きることに精一杯、そんな彼の生き様を描いた物語。

第一話 春風とともに 第一部はじまり

世の中にはとんでもない偶然というものが存在する。
最近起こったものといえばそう！

俺がお金持ち高校、松浦高校に入学できたことだ。

それともう一つ……あいつらと出会ったことだ。

「いやー入学式にはピッタリの天気だな」

と、何気なくつぶやく。

窓を開けると、まだ朝の少し冷たい空気が入ってきた。

「これで駿ちゃんとはお別れだね」

母さんが悲しそうな声を出す。

「なあに言ってるんだ。県内じゃないか」

俺は分けわからんことを口走る。

松浦高校は家から遠く、通える距離ではない、なので俺は学校で作った寮で住むことになったのだ。

心配がる母さんに行ってくるよと声をかけ、家をでた。

まだ薄暗く、人通りもほとんどなかった。出発の日にはちょうどいいじゃないか。

駅で切符を買い、ホームに行くと、俺と同じ松浦高校の制服を着た女の子が立っていた。

新入生だろうか、おしゃれな小さめの手提げかばんから、高校入学のパンフレットが丸められているのが見える。

身長は少し小さめで、茶色まじりの黒髪がクマのピン止めでショートヘアにまとめてある。

はずしたらもつと長そうだ。

小さい顔は整っていて、とてもかわいらしい。

その子はずつと下を向いてなにやら考え事をしているようだ。する

と、ふとその子が顔を上げた。

あわててそっぽを向いたが、気づかれてしまったようだ。
こっちに向かつて歩いてきてこう言った。

「吉川 比奈」

静かな朝には似合わぬ、元気な声だった。

俺は戸惑いを隠せなかった。

「えっ、それ名前？」

ずいぶん失礼なことを言ってしまったなど、言った後で後悔した。

「あたり前じゃん。あなた新入生でしょ。この辺じゃ松浦高の生徒なんて珍しいなあと思つて。どこ中出身？それより名前は？」

ペラペラと早口でしゃべるので、俺は驚いて返答が一瞬遅れてしまった。

「えっ、えっと、俺の名前は高菜 駿。中学は東中だったけど」

吉川とかいう女の子が驚いた口調で言う。

「じゃあ駿ちゃんって呼ぶね。中学は東中か。この辺に住んでるの？結構遠くない？」

母さんと同じ呼び方だな。やめてくれよ。

初対面の人にとる態度じゃないなと思つたけれど言うのはやめた。
なんだかややこしくなりそうだな。

「ああ、自転車で一時間くらいかな」

吉川は感心の声を出す。

「あつ、電車だよ」

電車が遠くから来るのがわかる。

中に入ると、当たり前なのだがとっても暖かった。

吉川が誰もいない車内のはじめの席に座った。

俺はその前に立つ形となった。

「誰もいないんだから座つてもいいんじゃないか？」

車内はとても静かでよく声が響いた。

「駄目だめ、男は立つもんでしょ」

いつの間にか主導権を握られてしまった。

「偶然だよなー。こんなところで同じ編入生に出会うなんて
なんだかうれしそうに言う。」

「えっ、お前も編入生なのか？」

「うん。私は一中から来たんだよ。」

「なっなんだ。こいつは松浦中からじゃなかったのか。」

「改めて自分の髪をいじっている少女を見た。」

松浦学校は中・高のエスカレーター式の学校だ。

しかし、わずかながらも高校になるとき、編入枠があるのだ。なんと！数は10のみ！

そんなような雑談をしているうちに松浦高についてしまった。

「はひ〜。広いなあ。」

確かに学校は広がった。

デイズニールランドの1.5倍はあるぞ。

広大に広がる森と施設の中心に校舎が2つあった。中学と高校で分かれているらしい。

「じゃ、入ろうよ。」

そのあと吉川と別れ、ポーっとしているうちに入学式と新入生歓迎会は終わっていたようだ。

朝早く起きたのがきいたのだろう。

結局、吉川とは一緒のクラスになったようだ。

教室に案内され、先生が言った。

「じゃあ、頼んだぞ。」

このクラスの担任の先生らしき人が言った。

紹介はもう終わっていたらしく、名前はいわなかった。

名前を一生懸命思い出そうとしていると、スタスタと行ってしまった。

あれっ、いいのか？

「それでは始めましょうか。」

そう言っただけにやら女の子が出てきた。

かなりの美人だ。

藍色の腰まである髪、大きくパツチリとした目、抜群のスタイル。
どれをとっても文句なしの容姿だ。

そんな彼女が言った言葉は……

「クラス会を！」

第一話 春風とともに 第一部はじまり（後書き）

初めての作品です。

出来るだけ長く続けたいです。

のんびりとした学園生活を楽しんでください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5173i/>

My life

2010年10月11日17時35分発行